

各報道機関 御中

熊本県の白川上流、阿蘇カルデラの国立公園内に計画中の立野ダムによらない治水対策を求めて活動をしております、「立野ダムによらない自然と生活を守る会」です。

羽田雄一郎国土交通大臣が立野ダム事業計画について「ダム案が最も有利」とした九州地方整備局の検証結果を妥当として、事業の継続を決定したことに對して、本日抗議文を提出しました。

本日は熊本県庁等で熊本県知事と熊本市長あてに、本省河川計画調整室で国土交通大臣あてに抗議文を提出しました。

本年7月12日の九州北部豪雨災害で、白川流域で亡くなられた方々は、全て土砂災害によるものです。白川があふれた箇所は、全て改修が完成していない箇所ばかりです。これらは立野ダムを造っても解決できない、深刻な問題です。くわしくは、抗議文と添付しております資料をお読みいただければ幸いです。ご不明な点などありましたならば、下記連絡先までお願い致します。どうぞよろしくお願い致します。

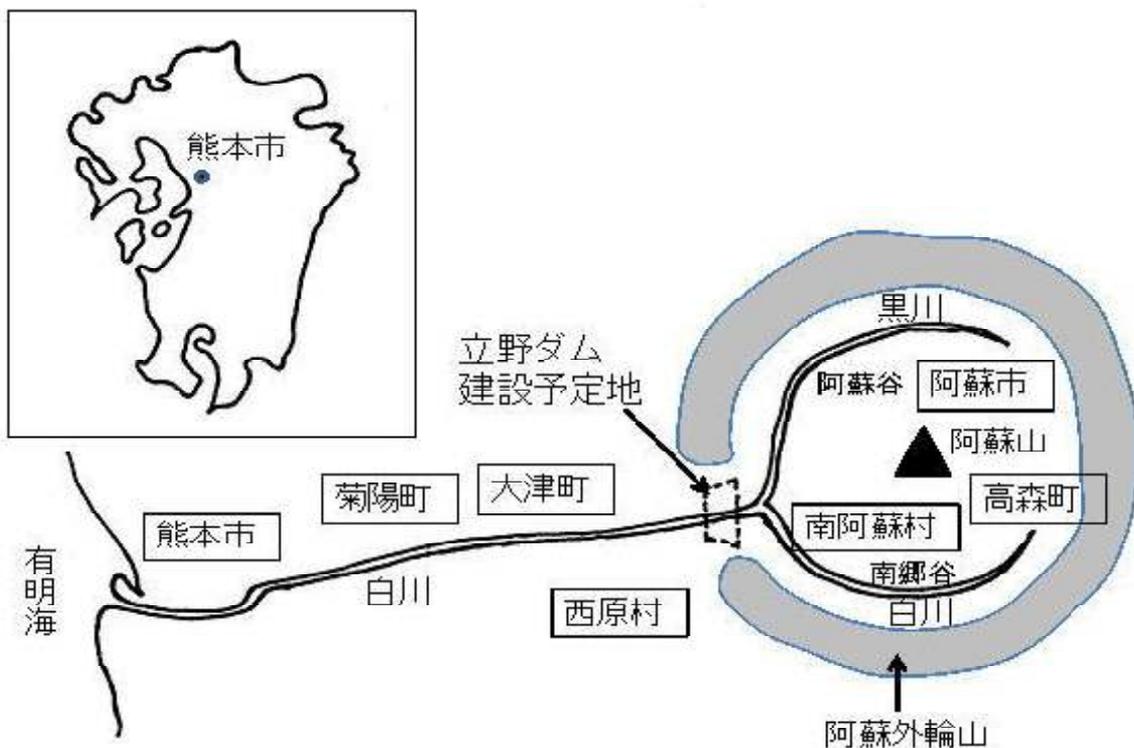
2012年12月18日

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康

連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13

電話 090 - 2505 - 3880 FAX 096 - 354 - 2966

<http://stopdam.aso3.org/>



立野ダム建設予定地の位置

2012年12月18日

熊本県知事 蒲島郁夫 様
熊本市長 幸山政史 様
国土交通大臣 羽田雄一郎様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康
連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

抗議文

12月6日、羽田雄一郎国土交通大臣は、立野ダム事業計画について「ダム案が最も有利」とした九州地方整備局の検証結果を妥当として、事業の継続を決定しました。

ところが、9月22日より白川流域の熊本市、大津町、南阿蘇村で開かれた公聴会では、3日間で30名の流域住民が意見陳述をし、全員が立野ダムに反対や疑問の意見を述べ、「立野ダム案がよい」と発言した住民は一人もいませんでした。

また、9月25日の学識経験を有する者等からの意見聴取においても、国交省が指名した委員であるにもかかわらず、問題点を指摘する意見が多く見受けられ、反対意見を述べられるのかとさえ思われるほどでした。これら住民や学識者の意見を聞かず、吟味もせず、国交省の情報のみで立野ダム建設を容認した熊本市長、熊本県知事は、あまりにも無責任と言わざるを得ません。洪水時にダム下部に設置される5m角の3つの穴が流木などでふさがり、立野ダムが洪水調節機能を失った場合等、立野ダムが災害を引き起こした場合の責任をどう取るのでしょうか。ダム本体工事に最低でも10年間を要することでも明らかのように、立野ダム建設予定地は極めて脆弱な地質であることは多く指摘されているところです。

熊本市長は、なるべく早急に立野ダムをつくってほしい旨述べられています。市長は立野ダムを造るべき価値のあるものなのか、具体的に市民に説明もしていません。市長は市民に対し、説明責任を果たすべきです。

熊本県知事は、まず立野ダム建設を認めたいうえで、環境に配慮し県民に十分な説明を述べられています。本来現状変更行為が認められない国立公園の特別保護地区に高さ90mものダムを建設すること自体が環境に大きな影響を与えるものです。事業検証の最終日である10月29日、国土交通省は立野ダム建設予定地周辺で国や県が保護すべきと定めている重要種174種の動植物が生息し、ダム工事の影響で42種もの生息地域や個体自体が消失するか、その恐れがあると公表しました。国土交通省はこれまで「立野ダムは普段は水を貯めず、水没するのは洪水調節をする短い時間であるので、環境に与える影響は小さいと想定される」と主張してきました。これまでの主張を大きく覆す調査結果を、検証作業の最終日に公表したことに、怒りを感じます。県知事は具体的に環境面でどのような点に配慮を希望されるのか、県民に説明責任を果たすべきです。

1 1月22日に国土交通省本省で行われた有識者会議においても、一般市民を排除した状況で行われ、同席した記者の取材さえ拒否する強権的な運営が行われたようです。有識者会議はダム事業の追認機関と化しているのではないかと12月5日の熊日新聞で報道されたほどです。その有識者会議でも「立野ダムでは、上流での環境等を考慮して、流水型ダムにしていると思われるが、長い間に土砂が上流に堆砂する可能性について、その影響をどのように考えているのか。環境を心配する意見も出されており、丁寧に説明していくことが必要ではないか」などの基本的な疑問が提起されていたのに、対応方針には何も反映されませんでした。

このような事業検証について、12月7日、羽田雄一郎国土交通大臣は、「丁寧に検討してきた結果を受け、私が最終的に決めた」と述べたと報道されましたが、客観的な検証がなされたとは全く言えません。民主党政権の打ち出した脱ダム方針を具現化するはずだった「ダム事業検証」を、河川官僚に丸投げする愚を犯した民主党政権の責任は極めて重いとと言えます。事業者が自らの事業を自らの手で検証することには無理がありました。国土交通省が選んだ学識者や有識者が、国土交通省の検証結果に異議を唱えることはあり得ません。これでは客観的な「検証」とは、とても言えません。

またそれを盲目的に追認した熊本県知事および熊本市長の姿勢は、完全に住民の民意との間にねじれ現象を引き起こしています。

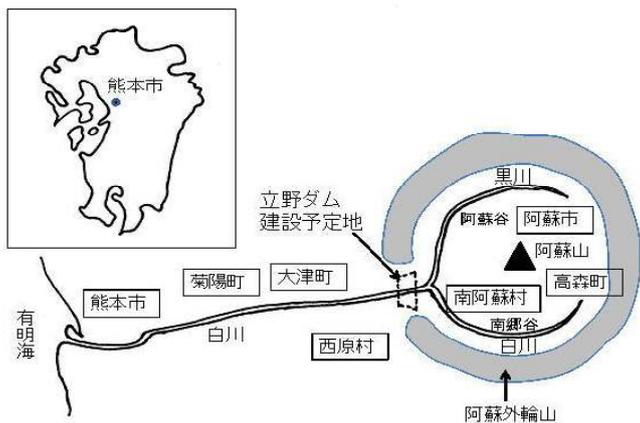
7月12日の豪雨災害で亡くなられた方々は、全て土砂災害によるものです。白川があふれた箇所は、全て改修が完成していない箇所ばかりです。これらは立野ダムを造っても解決できない、深刻な問題です。

立野ダム継続を決定した羽田雄一郎国土交通大臣大臣と、国土交通省の姿勢を追認するだけだった幸山政史熊本市長、蒲島郁夫熊本県知事に強く抗議をするとともに、客観的な検証を行うために、2012年5月2日に日本弁護士連合会が国土交通省に提出した「ダム事業の検証の抜本的見直しを求める意見書」に述べてあるように、独立・中立の機関によるダム事業の審査を行うことを強く求めます。

以上

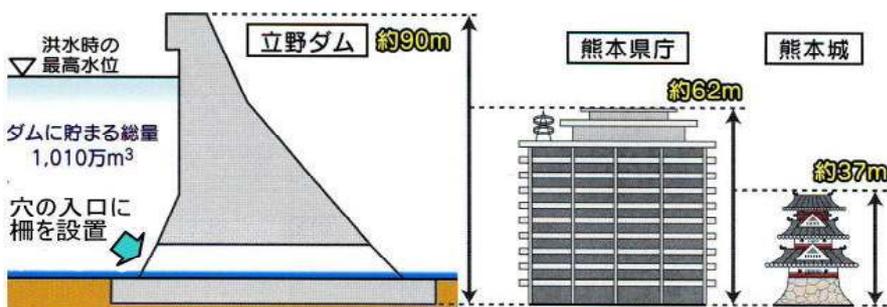
白川流域の安全を守るために 立野ダムより河川改修 を進めましょう！

STOP!
立野ダム
LOVE
阿蘇



- 立野ダムは阿蘇外輪山の唯一の切れ目、白川・黒川合流点のすぐ下流に国土交通省が計画した、高さ90mの洪水調節専用の穴あきダムです。
- 洪水時の白川の水は多くの火山灰を含みます。白川にダムを造っても、土砂や岩石、火山灰で埋まってしまうことは明らかです。

- 2012年7月の白川洪水で亡くなられた方は、全て土砂災害が原因です。白川が氾濫したのは河川改修が未完成の箇所ばかりです。立野ダムを造ってもこれらの災害を防ぐことはできません。
- 想定以上の洪水では立野ダム湖は満水になり、立野ダムは「洪水調節ダム」として機能しなくなります。
- 立野ダム下部の穴が岩石などで埋まらないように、穴の入口に柵（スクリーン）が設置されます。洪水時には大量の流木が穴の入口の柵をふさぎ、ダム湖は短時間で満水になります。満水になったとたん、ダムに流入する洪水がそのままダム上部から流れ落ち、下流の水位は一気に上がります。立野ダムは災害をひきおこします。



立野ダム建設予定地(立野峡谷)

立野ダムの高さ(国土交通省資料より)と、穴の入口の柵の位置

世界の阿蘇に 立野ダムはいりません!

- 立野ダム建設予定地は、現状変更行為が許されない阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区にあり、絶滅危惧種クマタカの生息も確認されています。国指定の天然記念物である北向谷原始林も水没し、かれています。穴あきダムは大量の土砂をため込み、洪水後もたまった土砂が流れ出し、長期間下流の白川を濁します。
- 立野ダムの総事業費の3割を熊本県が負担します。熊本県の負担額は約275億円です。県民1人あたり約15000円を立野ダムに負担することになるのです。
- ダム本体工事は大手ゼネコンしか受注できませんが、河川改修は地元の業者が受注でき、地域振興にもつながります。
- 立野ダム予定地周辺の地盤は、割れ目が非常に多い立野溶岩です。また、ダム予定地一帯には東西方向に断層が数多く集中しており、地震発生確率の高い活断層「布田川・日奈久断層帯」も通っています。ダムができれば地すべりや漏水の危険性があります。
- 阿蘇の草原を保全し、荒れた人工林を間伐し、流域の農地を守ることが、白川流域の災害対策や熊本の地下水の保全にもつながります。



割れ目だらけの立野ダム予定地の地盤

「立野ダムによらない自然と生活を守る会」のご案内



立野ダムは1983年の事業開始から30年近くがたつのですが、ダム本体工事にも仮排水トンネル工事にも着手されていません。私たちは白川流域の安全を守るために、危険な立野ダム建設にたよるのではなく、即効性のある河川改修などによる総合治水対策を求めています。白川は、全国でも珍しいダムのない一級河川です。熊本が世界に誇る阿蘇の大自然と白川の清流を自然のままの姿で未来に手渡すために、皆様方のご支援・ご参加をお願い致します。

(2012年12月14日更新)

■連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880 <http://stopdam.aso3.org/>